



千葉大学法経学部
総合政策学科 教授
広井良典 (ひろい・よしのり)

大丸有は、ビジネス街であるとともに、東京と地方を「つなぐ」機能を象徴的にもつ場所でもある。これまで東京と地方の関係性は、「(海外→)東京→地方」という情報の一方向的な流れだったが、むしろ今後は地方で新たな動きや試みが生まれ東京や世界に発信されるというベクトルが活発化していくだろう。そうした中で大丸有は真の意味での出会いと「フォーラム」の場になっていく。今回のビジョンはそうした時代の潮流にふさわしいものと言えるだろう。



東京大学
生産技術研究所 准教授
加藤孝明 (かとう・たかあき)

人がいてまちがある、そこでの営みの蓄積が歴史である。120年以上の歴史の中で創りだされた多様な価値が現在の丸有に引き継がれている。サステイナブルビジョンは、環境・防災・健康・文化・自己実現、人が求めるすべての視点を包含している。そして、人と人との出会いにより創発を生み出す環境づくりを志向するこのまちを触媒として、新たな価値観を生み出す営みを喚起し、次の時代の文化を拓くであろう。

「大丸有サステイナブルビジョン」に寄せて 策定委員から



東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻 教授
小泉秀樹 (こいずみ・ひでき)

多様な人とコミュニティがつながり新しい価値を生み出す、という「大丸有サステイナブルビジョン」の基本コンセプトは、現代的コミュニティ・デザインの考え方そのものだ。つまり、丸有という世界に名だたるCBD*を舞台として、対話の場をデザインし、さまざまなコミュニティを生み出し、そこからイノベーションを引き起こす。とても魅力的でこれまでにない都心のモデルとなるだろう。ビジョン策定に関わった一員として、今後も協力していきたい。

*CBD…Central Business District(中心業務地区)



三菱総合研究所 主席研究員
松田智生 (まつだ・ともお)

サステイナブルには環境だけでなく、高齢化、健康、雇用、子育て、観光、災害など多様な要素がある。特に世界一の高齢化は丸有でも大きな課題になっている。今重要なのはこれをピンチではなくチャンスと捉える発想。丸有に活力ある多世代が集い、働き、学び、活躍する。将来は「経済のダボス」に並んで「サステイナブルを知りたいければ丸有へ行け」と、世界から注目されるような夢のあるまちづくりになることを期待している。

だいまるゆう 大丸有について

東京都千代田区にある、大手町・丸の内・有楽町の3地区は、日本の発展を支えたビジネスと文化の中心地として、地理的・文化的・経済的な結びつきが強く、これまで一体となってまちづくりを進めてきました。その過程で、地区にかかわる地権者・ビルオーナー、立地企業、立地店舗、就業者、行政、インフラ事業者、来街者などの人びとが有機的に連携し、形づくられてきたコミュニティが丸有*です。

*大手町・丸の内・有楽町それぞれの頭文字をとって名付けられました。

「大丸有サステイナブルビジョン」を詳しくお知りになりたい方、取り組みにご支援・ご協力いただける方は、エコツェリア協会事務局 (conciierge@ecozeria.jp) までご連絡ください。冊子のPDFファイルは、下記よりダウンロードできます。

<http://www.ecozeria.jp/about/vision.html>

